

2024年度「学生支援に関する基礎研修講座」開催の結果報告について

2024年9月18日

2024年8月29日（木）、30日（金）の2日間対面により「学生支援に関する基礎研修講座」開催し、国・公立大学職員11名、私立大学・短期大学職員等40名、合計51名の受講をいただきました。

8月29日（木）には基礎研修講座に先立ち、無料公開講演会（題目：高等教育の現状と課題、講師：文部科学省 大学教育・入試課 専門職 嶺口湧士）を実施しました。

講義1

溝上慎一 桐蔭学園理事長から「高等教育改革の進展—準正課・正課外プログラムで「文部両道」「ノート作り」を支援して、教学マネジメントに繋げる—」について、

①キャリア支援としての「ノート作り」、②教学マネジメントとして組織化する桐蔭横浜大学の学生支援、③学生支援の本質は「ウェルビーイング」支援である等について事例等を示しながら説明が行われた。個人ワークが行われ感想や考えたことがグループでシェアされ、また受講生に対しては「大学のDPを意識した教育・支援をしていますか」という問いが投げかけられた。

講義2

杉本義行 成城大学学長から「修学支援・学生支援における教職協働—教職協働のあるべき姿—」について、

①教職協働—大学設置基準と本学の事例、②教職学協働—本学ピアサポーター制度の実際、の説明が行われた。グループワークは長尾繁樹同大学長室長のファシリテーターの進行で行われ、各所属大学の修学支援・学修支援について課題共有とその課題解決の具体的提案が発表された。

講義3

竹山優子 筑紫女学園大学 教学支援部班長から「学生の自律と大学の役割—多様化の中の支援の醍醐味—」について、

①大学を取り巻く現状と学生支援、②障害学生支援をヒントに、③「学生の自律」に向けての具体的事例について、その課題と対応について説明が行われた。グループワークは各所属大学の「課題ある学生の事例」を共有し、卒業までに「自律」するため有効な具体的支援策について発表が行われた。

講義4

大西好宣 千葉大学 国際未来教育基幹教授から「学生支援・学修支援としての海外留学アドバイジング—現状分析とケースメソッドによるワークショップ—」について、

①留学生受け入れと日本人学生の派遣、②大学が提供する留学支援サービス等について説明

が行われた。また事前に2課題が受講生に示され、それに基づきグループワークが行われた。引き続き、具体的事例についての動画について、その意図についても受講生に熟考させた。なおケーススタディとケースメソッドは同じではない。ケースメソッドは疑似体験で場数をこなすことが判断力の基礎になる等の解説も行われた。

講義 5

星野聡孝 大阪公立大学 国際基幹教育機構教授から「大学教育と生成 AI について—大学はどのように対応すべきか—」について

①生成 AI の状況と影響、②生成 AI への対応、③今後の対応策を考える等について具体的事例、ChatGPT で作成された事例、ChatGPT 以降の生成 AI、新型コロナ対応からの示唆などについて詳細な説明が行われた。個人ワークで生成 AI の新たな活用施策を考え、それをグループでシェアし、施策実現に向けたプランについて発表が行われた。

今回の研修講座の講師のうち、竹山講師はスチューデントコンサルタント認定者であります。

また、5年ぶりの対面開催となったので任意参加の懇親会やグループ別懇談会を実施、グループワークで話し足りなかったことや、名刺交換、情報交換の場として活用いただきました。